

# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

## 【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

### 《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

### I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	社会学研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.2 教育課程・教育内容
小項目	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
要素	必要な授業科目の開設状況 順次性のある授業科目の体系的配置 専門教育・教養教育の位置づけ(学部) コースワークとリサーチワークのバランス(院)
小項目	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
要素	学生課程教育に相応しい教育内容の提供(学部) 初年次教育・高大連携に配慮した教育内容(学部) 専門分野の高度化に対応した教育内容の提供(院) 理論と実務との架橋を図る教育内容の提供(専院)

### II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

#### 《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 体系化されたカリキュラムに対応した専門領域担当者の配置と履修指導の徹底	→学生の履修状況(偏在の有無)、不開講科目数、履修指導の有無、カリキュラムマップの作成	B	B	B	B	A
2. ソシオリテラシー涵養のコースワークプログラムの確立	→コースワークプログラムの整備の周知・公表の有無	A	B	B	A	A
3. 英語クラスにおける能力別クラスの設置	→英語の能力別クラスの実施・履修の有無	A	B	B	B	A

☆

  

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

#### 《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 前期課程社会学専攻アカデミックコースにおいては、特定の領域・方法に偏ることなく社会学的、社会心理学的発想の基礎を幅広く修得するための科目群を設け、専門社会調査士コースにおいては、社会調査の技能と分析能力を修得するため、各科目の順次性に配慮して配置している。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 「先端社会講義I」「先端社会講義J」では、大学院生の研究に関する助言やサポートを丁寧に取り組むことができ、より充実した履修指導の体制を整えた。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か ポストGPプログラムの後継プログラムである大学院生サポートプログラムにおいて、履修に対するアドバイスなどを積極的に行っていく。また、履修状況やカリキュラムの体制についても委員会でも定期的にチェックしていく。	☆
		その他	☆

目標2	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 「先端社会講義A/B」「先端社会研究A/B」に分け、前者を前期課程、後者を後期課程の科目として開講している。なお、Aはソシオリテラシー涵養のベーシック科目として、Bはアドバンスト科目として順次性を持たせている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 大学院生にベーシック科目とアドバンスト科目の両方を受講させることができ、また、後期課程大学院生のアシスタントを加え、受講者に教育上のサポートを行うことができた。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 「先端社会講義A/B」「先端社会研究A/B」を引き続き進め、大学院生の研究関心を伸張させる体制を整える。	☆
		その他	☆
			☆
目標3	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 大学院生の英語能力に応じたクラスを設置し英語論文の講読を目的とした「社会学文献講読」を開講している。また、「先端社会講義J」の「大学院生が行う研究に関する助言」のなかで「英語でのプレゼンテーション」の指導を行っている。さらに先端社会講義Eのなかで英語プレゼンテーションの指導を行っている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 大学院生の英語論文が国際雑誌The International Journal of Japanese Sociologyに投稿され査読を通過し掲載されるなど、効果を上げた。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 少人数教育のため担当者が個別の対応を行い実質的な能力別の指導となっているので、さらに充実させた指導体制を進めたい。	☆
		その他	☆
			☆
備考		☆	